

あろま

2011.10.26.

学校体育研究同志会東京支部 西多摩ブロック

10月例会 ハンドボールの研究をまとめるために

10月8日(日)にあきる野・一の谷小で西多摩ブロック10月例会が開催されました。参加者は5人でしたが、ハンドボールの話だけではなく、特別支援教育をどう考えるかなども熱く論議されました。

近況から

10月1日(土)に運動会があった。1・2年合同の170人で「はねこおどり」を踊った。Nさんが全体指導をし、私は生で太鼓を打った。太鼓の合図で動く部分も多く、太鼓の重要性を感じた。スペシャルゲストとしてNさんのお兄さん(元米米クラブのメンバー)も来て、キーボードで演奏してくれた。昭和記念公園に遠足で行くが、運動会に続いて遠足でも2年生が1年生を引っ張っていけるよう期待している。(Aさん)

学校の裏にある田んぼのイノシシ対策として、去年の電気柵にかわって「ししおどし」を設置している。これは日ごろから田んぼの世話をしてくださっている方が「自然の大切さを子どもの教えるのなら電気柵ではなく昔からの里山の知恵を生かすべきだ」と、つくってくれたものだ。作品展にも総合の作品として「ししおどしの研究」を出す予定だ。(Bさん)

学校の地元の土を使って焼き物を作った。「引田焼き」として出していこうと思っている。人事関係についてもいろいろ考えている。特別支援について、難しい面があることを感じている。今日は、ハンドボールの資料を用意した。

ハンドボールの指導書は少ないが、この本はわかりやすいように感じた。(Cさん)

「確実に上達するハンドボール」LEVEL UP BOOK 酒巻清治(トヨタ車体ハンドボールチーム監督)・監修

10月1日(土)に運動会があり、1・2年生で「チャーピラサイ」を踊った。やるにあたってNさん、Aさんにお世話になった。あと1年で異動だが、どこの動物園の近くの学校に行こうかと考えている。多摩動物園で生活科の学習をしたいと考えていたが、やりたいことをやれるのに3年かかった。特別支援の話に関



いて、考えるところがあった。(Dさん)

今日は特別支援の話で終わってもいいくらいに思う。学校で特別支援の対象の子がたくさんいるクラスで、悩みを抱えている人がいる。やっとみんなにそのことを話せたと、少しほっとしたようだった。学校でもっと共有化して取り組んでいく必要があるが、ともに力を合わせる事ができにくい現状もある。特別支援の必要のある子に対して体から変えていく方法もあり、運動のもつ力は大きい。(Eさん)

言葉の指導や見まもること

特別支援教育についても話し合われました。その中で次のようなことが出ました。

- ・「見える世界がちがっている」ということを考えに入れておかないといけない。見える世界がちがって、その世界しか見えていないということがある。マンガを読んでいて、時間がきてもやめられないのもその一つだ。
- ・高機能自閉症には次の3つの特徴がある。「こだわり」「想像力の課題」「社会性・コミュニケーションの課題」。想像力の課題というところでは、「まっすぐ帰りなさい」と言うと、どぶの中でも入ってまっすぐに帰ったりすることがある。
- ・「やだ」と言わず、「～はやりたくない」と言わせる言葉の指導が大切だ。そういう言葉の指導もできない状態のときには、強引にやらないで見守ることも大切だ。

ハンドボールの本についての提案から

これまで西多摩ブロックで研究・実践を積み重ねてきたことをまとめ、本をつくるにあたって、次のようなことを考えてきてくれました。(資料から)

【今回の目的】

どんな本が必要なのかをみなさんで意見を出し合い、構想を固めていきたい。

1. なぜボール運動を教えるのか。
2. ボール運動を指導する中でかかえる問題点(ボール運動を指導するむずかしさ)。
3. フラッグフットボールの教材的価値。
 - ・2の矛盾を克服したものがフラッグフットボール
4. フラッグフットボールだけではなぜダメか。
 - ・フラッグフットボールのみでもいいのでは?
5. 小学校6年間のボール運動の組み立て方。
 - ・低学年 中学年 高学年(根拠と具体的教材)
6. 子どもたちが主体的に学習を展開する上で必要な手立て
 - ・グループ編成の方法(生活集団 学習集団...PDCAサイクルの確立)
 - ・調査方法(触球数、心電図、ソシオメトリーetc...活用のしかたを含む)
 - ・グループノートの使い方(写真入り)
 - ・作戦図、人形など(作戦人形、コート図、紙で切れる人形)
7. 体育(ボールゲーム)と他教科、教科外、地域・家庭との関連
 - ・どのような世界をもとめるのか
 - ・世界観と関わって具体的に何を用意するのか。

【体育専科の立場から】同じ教科を指導するにしてもクラスによってその対応がさまざま。授業でも子どもたちを変革する必要があるが、他でも変革する必要がある。その総和が教育である。文学作品一つをとってもそこにちがいがいるのではない。

8. ボール運動の構造

研究をまとめつにあたって大切にすること

この提案をもとに、話し合われました。

・「文化内容」「教科内容」「指導内容」を区別しながらとらえ、その関係性を明らかにしていくようにする。

・「フラッグフットボールの指導」の本の構成をもとにして、考える。(第1部 授業編、第2部 授業研究編)

・ほかの球技は入れないで、ハンドボールの指導だけにする。授業編の構成は、

低学年...ポケシュートゲーム、など

中学年...ハンドボールの基礎的なもの(2:0から3:3の入り口まで)

高学年...ハンドボールの発展的なもの(3:3を十分に生かした攻め)

中学校...明星学園の中学校の実践をもとに

・授業研究編の構成は、

ハンドボールの文化的特質

・ハンドボールの歴史

・ハンドボールのゲーム的な特質

時空間論

など

ハンドボールの教科内容

・教材化の視点

・教材価値

など

ハンドボールの指導内容

・子どもにつけたい力

・基礎技術論

・指導の系統

など

参加された方の感想から

前回いただいたフラッグフットボールの本を電車の中で読んできましたが、ボール運動全般に通じるものがあると思った。みんなが得点できることをポイントにしていくことが大切だということを入れた。そのためにも個人の技能、チームの動き方をこれからハンドボールの学習で学んでいきたい。

(Aさん)

本日も大変勉強になりました。色々な事を一緒に考えてくれる仲間がいる事が本当に有難いです。今日学んだ事を来週からの実践に生かしていきます。楽しみになってきました。西多摩サークルで学んだ事がまとめられているフラッグフットボールの本も大変役立っています。ハンドボールの本もこうなるといいですね。来月の研究も楽しみです。

(Eさん)

球技（ボール運動）の中のハンドボールの位置づけをはっきりさせる意味で、文化内容、教科内容、指導内容の区別の関連を考えたい。そのためには、これまでの研究をあらためて整理する必要を感じた。

この研究が本づくりの趣旨になるとよい。

(Cさん)

昨年、明星学園で長年研究してきたボール運動について西多摩ブロック例会で提案してもらい、それをもとにハンドボールの授業をすることができました。また、Aさん、Nさんの取り組んだポケジューゲームの授業を西多摩ブロックでつくってきました。そういったことももとにして本づくりができそうで、楽しみです。

(Bさん)

ハンドボールの本作りについての話し合いですが、ボール操作の基礎技術を低学年のうちからしっかり教えたいので、そういう部分も書かれた本ができるとうれしいと思います。

また、ボール運動について良くわかっていない人が授業できる本にするためにも、たくさんの方のことを配慮する必要があると思います。他にも勉強するなら、ここみたいに同志会の紹介があるとうれしいかもしれません。

(Dさん)

西多摩ブロック 11月例会のご案内!

日時: 10月12日(土) 午後1時~

場所: あきる野市立一の谷小学校

問い合わせ・連絡先 TEL: 042-559-4501

アクセス等は以下の一の谷小学校の

ホームページをご覧ください。

<http://www.akiruno.ed.jp/e-ichinotani>

* ハンドボールの研究を まとめるために *

低学年の授業計画

中学年の授業計画

授業研究編

これまでの研究の整理のしかた



ご注文は

<http://www.soubun-kikaku.co.jp/taiiku/26.shtml>
から